

2023年度事業報告書

2023年4月1日～2024年3月31日

認定特定非営利活動法人こども∞感ぱにー

ビジョン：子どもの笑顔が地域のなかで育まれるために

ミッション：どんなときも子どもの可能性を信じる大人であり続けます

子ども心と勇気を持って、子どもが安心して過ごせる環境を地域とともに創造し続けます

1.活動のまとめ

今年度から放課後児童健全育成事業の受託を開始し、石巻市子育て支援課との連携、学校や保護者とのコミュニケーションが求められた。戸惑いもあったが、本会のミッションの軸である『子どもの主体性』を大切にしたい子どもの居場所づくりが新たに始まった、一歩前進の年だった。

また、こども家庭庁ができたことで、石巻の子ども支援への風の流れを感じた年でもあった。

石巻市の子ども居場所懇談会開催や、渡波・鹿妻地区の健康づくりパークが遊びやすい場に計画変更、石巻市教育長が本会のフリースクールに来訪し子どもと座談会を開くなど、行政との関わりが増えた。これらは『子どもの声』を伝える機会であり、今後制度や施策に進化をもたらす期待をいただくことができる。

各行政機関と対話し共に考えていく関係性が構築できつつある。

≪重点目標≫ 2023年度事業計画より

●各ネットワーク・地域連携事業により社会課題の解決に向けて

多様な学びを共につくる・みやぎネットワークでは、不登校6,000人アンケートを実施し、その結果を文部科学省と宮城県教育長に進呈し、当事者の声を届けた。宮城県教育委員会と『不登校』に関する意見交換の機会はなく、関係構築は停滞した年だった。

一方、石巻市の有志が集う、まずは石巻から『不登校』という言葉をなくしたいネットワークが主催した『不登校』シンポジウムでは、教育関係者や行政職員、当事者の子どもや保護者などが参加し、生の声の意見交換の場となった。日常、話すことがない人同士が立場を超え互いの声を聴けたことに大きな反響があり、当事者と支援者のパイプ役に大きな責務を感じることができた。

●人材育成

地域住民やボランティアへのプレイワークは目標達成とはいかなかった。しかし、放課後児童クラブの新規スタッフやネットワークの有志には、随所で伝えることができた。

プレイワーク要素、子どもの主体性の大切さを伝える人たちとの接点・出会う仕組みが大前提必要である。

●組織基盤強化と資金調達

持続可能な組織であり続けるために、助成金に頼らない資金調達とその体制づくりが必須であるが、継続的な資金調達には結びつかず、特にSNSを運用したのものには今後も分析と新たな取り組みが必要と感

じた。一方で、本会を支援し続けてくれる人たちと交流の場を設けた際、本会の活動を心から必要と考え『これから』について一緒に考えてくれることに心強さを感じた。

2025年度終了までに、資金調達の基盤を確立する。

2. 事業報告

(1)すべての子どものための居場所（あそび場）に関する事業

◆プレーパーク事業

●プレーパークわたのは

【目的】

子どもが自分の責任で遊べる機会を創出し、子どもの生きる力を育む

	目 標	実 績	成 果
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◎現場整備も含めイベントやご飯づくりを通して来所のきっかけを増やし、継続して関わる大人を増やす。 ◎子どもの居場所・あそび場の必要性を伝え子どもを見守る目を増やすことで、子どもが遊びやすい環境を地域と共につくる。 ◎「遊び」という間口から、スタッフは子どもと信頼関係を築き、子どもが安心して過ごせる第三の居場所を確立する。 ◎社会課題を伝えていくために課題の根拠となる現場のデータを取集する 	<ul style="list-style-type: none"> ◎毎週金・土・日曜日 金/15:00~17:00 土・日/10:00-16:00 ◎体制：スタッフ2名 ◎ボランティア 46名（延94名） 【環境整備】 ①やぐら補修(5月) 【イベント】 ①秋祭り(11月) 子ども59名、大人51名 イベント協力者：15名 ②クリスマスイベント(12月)※子ども企画 ③プレわた新年会(1月) 【地域連携】 ①黄金浜南地区ゴミ拾い参加(11回) ②避難訓練(12月) ③地域会議(7月,10月,3月) 	<ul style="list-style-type: none"> 【イベント】 ◎秋祭り：地域サロンの作品を出品した方々が初めてプレーパークに来所し、子どもたちと交流する機会となった。 【地域連携】 ◎避難訓練：地域の方との訓練は実現できなかったが、話し合いは深められたため黄金浜南・東の自治会とより深い関係が築けた。 ◎地域会議：参加した保護者とプレーパークについて深く話すことができ、プレーパークの大切にしていることを伝えると共に、当事者として関わる意識を持ってもらえた。
開催回数	140回	151回	
利用人数	子ども延3,000名 大人延1,080名 合計:4,080名	子ども延2,685名 大人延958名 合計:3,643名	

【来所者のエピソード】

・Tさん(小学6年生/男子)

プレーパークで色々な遊びを作り出し、大将のような存在だったTさん。2022年度にボランティアが企画したクリスマス会が忘れられず、今年はTさん自ら企画をした。いつもお世話になっている地域の人に声をかけ、当日は一緒に準備をするなど、子どもと地域の人との間でよい繋がりができていた。

・Sさん (小学2年生/女子)

プレーパークやフリースクールを利用していた子の妹で、未就学の頃から知っていた子が今年になって初めてプレわたに訪れた。家に帰っても昼食がない時は、プレーパークで一緒に作って食べたり、一緒に遊ぶ中でその子にとってプレーパークが安心できる居場所になった。

・Sさん、Tさん兄弟 (小学4年生、小学1年生/男子)

放課後児童クラブにも通っている兄弟で、そこでプレーパークわたのはを知り来所し始めた。今では毎週のように来て児童クラブに通っているとなかなか一緒に遊べない友達と遊んでいる。2023年度は児童クラブを利用している子どもがプレーパークを利用することが増え、両面から子どもたちを支えることができています。

【課題】

- ・プレーパークの周囲の環境も変化してきており、地域との調整が増えた（焚き火、ボール、やぐら）。そのため、子どもの遊びを制限しなければならない状況から、子どもの来所数が減少した。
→プレーパークや子どもの主体性や遊びの大切さなどをどのように伝え、調整していくか。
- ・未就学児親子対象の開催時は護者の来所が多かったが、現在は直接コミュニケーションをとる機会が減少した。
- ・継続的なボランティアスタッフの確保

●プレーパーク“ひがこー”

【目 的】

子どもが自分の責任で遊べる機会を創出し、子どもの生きる力を育む

	目 標	実 績	成 果
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◎「遊び」という間口から、多様な大人と関わる機会をつくり、スタッフは子どもと信頼関係を築き、子どもが安心して過ごせる第三の居場所を確立する。 ◎ボランティアの受け入れや資金調達を行うことにより、ひがこーの安定した開催体制をつ 	<ul style="list-style-type: none"> ◎水曜日 15：00－17：00 (冬季15：00－16：30) ◎体制：スタッフ1名 ◎ボランティア：9名(延46名) 【環境整備】 <ul style="list-style-type: none"> ・倉庫内整理（通年） 【イベント】 <ul style="list-style-type: none"> ・WWI鹿妻夏祭り(8月) ※WWI鹿妻夏祭りはWWI、鹿妻三町内会と共同で開催 ・1日あそび場：1回(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎保護者やボランティアなど子どもを継続的に見守る大人が増えたことで子どもにとってより安心できる居場所となった。 ◎スタッフ1名+ボランティア1名で開催する体制が整った。

	くる。	【地域連携】 ・鹿妻小学校授業「農村クラブ」サポート 【広報】 ・会報誌配布（各30部） ・1日ひがこーチラシ配布	
開催回数	50回	49回	
利用人数	子ども延1,000名 大人延300名 合計:1,300名	子ども延949名（前年比+63名） 大人延235名（前年比+5名） 親子延121組（前年比+12組） 合計:1,184名	

【来所者のエピソード】

・Aさん（小学3年生/女子）

家庭に課題を抱えたAさんは、夕方お迎えが来るまで他児と遊び、スタッフやボランティアと良い関係を築いている。「ボランティアと遊ぶの好きなんだよね」という言葉もポロリと出るなどひがこーやここにいる大人が安心できる存在となっている。

・Bくん（小学4年生/男子）

焚き火と料理が大好きなBくん。ひがこーに来所すると毎回焚き火を焚き、持ってきたお菓子を焼いて食べる。「俺、焚き火マスターだから！」と得意そうに薪を割り、火をおこしている。焚き火が初めて子どもに薪の割り方や火のおこし方を教えるなど、遊びを通じて子ども同士のよい関係性が自然とできていた。

【課題】

- ・継続ボランティアの確保と人材育成。

●プレーパーク・プレイワーク普及事業

【目的】

石巻の被災地に新たな人の流れを作り孤立によるリスクが高い、子育て世帯や高齢者のコミュニティづくり

	目 標	実 績	成 果
内容	○移動 PP 開催：全 5 回 ○振り返り交流会 2024 年 3 月 ○子育てで不安を抱え、 孤立した住民同士が繋がる	・月浜地区（9 月/東松島） 参加人数：子ども 28 名、大人 37 名、計 65 名 ・北上友遊村協力（11 月/石巻） 参加人数：子ども 29 名、大人 41 名、計 70 名 ・大曲地区（11 月/東松島） 参加人数：子ども 23 名、大人	・昨年の移動式プレーパークに参加した保護者の要望により開催地の選定からおこなった。また地域のキーパーソンと繋がることで、世代を超えた地域で子どもを見守るコミュニティが生まれた。 ・支援終了後も継続するための

		15名、計38名 ・振り返り交流会(3月/東松島) 参加人数：子ども6名、大人14名、計20名	提案ができた。 ・地域の子どもが、新たな友達と遊ぶ機会や、遊び道具がなくても地域や自然の中でのびのびと遊ぶこと機会をつくることのできた。
開催回数	プレーパーク5回 振り返り交流会1回	プレーパーク3回 振り返り交流会1回	
利用人数	延150名	プレーパーク： 子ども延80名、大人延93名 振り返り会 子ども6名、大人14名 計：延193名	

【来所者エピソード】

・東松島大曲地区

神社を地域の集会所のような場所にしたいとの希望から実現した。発起人であるKさんと繋がることで運営委員や近隣のお寺も積極的に関わり、今後も子どもを見守れる良いコミュニティとなった。

また、振り返り会で地域のキーパーソン（区長、議員、まちづくり協議会、学校運営協議会など）が多く参加し、今後も地域の子どもたちのために活動していきたいという声が上がった。

◆フリースクール事業

●フリースクール“ぼはっく”

【目的】

安心して過ごせる居場所や、「やってみたい」を実現できる環境をつくり、学校に行けない子どもが、社会の中で自立するためのサポートをおこなう

	目 標	実 績	成 果
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◎ぼはっくの保護者同士が繋がり、『不登校』に関する情報交換や子どもに関して話し合える機会をつくる。 ◎地域の人の不登校理解を深めるために、イベントを子どもと企画・実施し活動に参加する機会をつくる。 ◎本人の意思による高校進学や復学、社会への自立：3名 	<ul style="list-style-type: none"> ◎毎週月・木・金曜日 10：00-16：00 ◎体制：スタッフ2名、アルバイト1名 ◎ボランティア：延べ36名 ◎子ども会議：30回 ◎処遇会議：月1回 【イベント】：65回 <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急講習受講（6月） ・川開き祭り出店（8月） ・八木山動物園（10月） ・石巻市教育長と座談会(11月) ・クリスマス会（12月） 	<p>【利用児童生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校復帰や社会への自立：7名（高校進学3名、学校復帰4名） ・子ども会議の実施が安定したことで、会議が子どもの生活の一部になり、自分の意見や考えを発言できる子どもが増えた。また、川開き祭りへの出店や1泊2日の合宿の計画を立てる際も「自分たちで考

内容	<ul style="list-style-type: none"> ◎出席扱い学校数：在籍児童生徒が通う全校（累計12校） ◎石巻市の学校、SSWや総合相談センター、保護課などの教育機関・行政機関と連携体制構築 ◎個別の活動記録を作成し、登録児の在籍校に提出。子どもに関する情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市天文台（1月） ・スノーボード合宿（3月）など <p>【地域(学校)連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①登録児童生徒の個別記録提出：82回。受験に向けた情報交換と支援方針の計画を担任と立案。 ②地域の大人との交流:35回 ③専門機関との連携体制構築 <ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議：2回 ・『不登校』支援団体との連携（情報共有他）：2回 ・石巻市総合相談センターとの連携・情報共有：1件(生活困窮・ひきこもり) ・石巻圏域子ども若者支援地域協議会への出席：2回 ・SSW会議：4回 	<p>えて計画を立てる」ということができる子どもが増えた。</p> <p>【地域(学校)連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席扱いの学校が2校増加（計13校） ・活動前のオリエンテーションや活動後の振り返りを行うことで、地域の大人やボランティアの不登校理解が深まった。
面談 相談 受入	保護者会：3回	<ul style="list-style-type: none"> ◎保護者・児童面談、新規相談 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談(新規含む)：延べ31名 ・児童生徒面談 延べ7回（その他日常的に相談対応） ・困難事例受け入れ(東京)夏休み23日間、翌年1月に5日間。 ・保護者会：4回 延べ14名 	
開催 回数	150回	155回	
登録 者数	44名(+新規8名)	44名（新規8名）	
利用 人数	延べ1,200名	延べ1,149名	

【来所者のエピソード】

・ Cさん（中学3年生）

コミュニケーションが苦手で、家族との会話も少ない本児。登録した当初は表情が固く、スタッフとの会話も一方通行だったが、他児との関わりの中で少しずつ表情が和らいでいき、お腹の底から笑ったり、他児と会話のキャッチボールができるようになった。高校にも無事進学できた。

・ Dさん（中学3年生/女子）、Eくん（小学4年生/男子）

7月に登録した中3のDさんと、8月に登録した小4のEくん。当初Dさんは保護者の希望でぽはっくに来所していたため頻度が少なかったが、Eくんと仲良くなったことで自分の意志で来所す

るようになった。年齢も性別も違う二人だが、お互いにとって居心地のいい存在になった。

【課題】

- ・本事業の周知、情報発信（リーフレット配布、HPの充実）
- ・定期的なボランティアの確保

◆放課後児童健全育成事業

●渡波地区第一第二放課後児童クラブの委託運営

【目的】

放課後児童クラブに通う子どもにとって、児童クラブが楽しく、安心して過ごせる環境となることで、子どもの心身ともに健全な育成を図る

	目 標	実 績	成 果
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの居場所となるような場づくりをおこなうとともに、子ども自身が児童クラブをつくる体制を構築する。 ・保護者にとって子育てのパートナーとなる。 <ul style="list-style-type: none"> ・新規児クラ職員は、子どもの主体性を受けとめ、引き出せる場づくり・関わりを実践し育成支援を理解する。 ・石巻市の各種条例に記述される文言『指導』から『支援』へと移行していく ・地域住民がボランティアとして関わることや企業連携を図ることなどで、地域に開けた放課後児童クラブを確立する 	<ul style="list-style-type: none"> ◎平日・月 1 回土曜日 通常：13:00～18:00 1 日開所：8:00～18:00 ◎体制：スタッフ 9 名 <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練：計5回 (地震津波2回、不審者対応2回、火災対応1回) ◎コア会議：12回 <p>【子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①子ども会議：随時 児童クラブのお約束、夏休み企画、Youtubeの使い方 ②イベント <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み：計5回 流しそうめん、肝だめし他 ・子ども企画：6回 ゲーム大会、体育館でバスケット実施など ・土曜日開所企画：10回 ピクニック、おやつ・うどんづくりなど ③その他 外遊び時間延長や宿題部屋設置他 <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①保護者説明会：3回 ②保護者アンケート：3回 ③児クラだより：月/12回週/34回、番外編/7回 ④お茶っこ会：5回 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの声を聴き、保護者や学校、子育て支援課の理解を得ながら児童クラブの一日の流れを変更し、イベント等の企画を実施する中で、子ども主体の育成支援を進めていけたことで、保護者の満足度も向上させることができた。 ・本会が受託したことにより不安の声が多数上がったが、保護者の意見を聴きそれに応えることを継続しておこなった。また、日頃のコミュニケーションを図ることで信頼関係も構築されてきた。 →下の『保護者アンケート結果』参照

		参加者：延13名 【地域(学校)連携】 ①学校：子どもに関する情報共有、施設利用（体育館、遊具他）など ②地域：民生委員イベント協力	
開催回数	255回	255回	
登録者数	-	107名(4/1) →99名(3/31) 最大：112名(8/1)	
利用人数	-	延16,214名（平均63名/日）	

【保護者アンケート結果】

	6月	9月	3月
5（満足している・期待以上である）	11.7%	26.4%	21.3%
4（概ね満足している）	29.9%	37.5%	41.0%
3（とくに不満・心配なことがない）	35.1%	23.6%	27.9%
2（良かったこともあるが、不満・心配なことが多い）	19.5%	11.1%	9.8%
1（不満・心配なことしかない）	3.9%	1.4%	0.0%

○保護者の声

- ・子ども達を楽しませるために、いろいろ企画し実行してくれている。
- ・子どもの意思を大切にしてくれる。
- ・色々な取り組みをしてくれたり、全力で遊ぶ、子供達で考えるや解決するを教えてくれたり、とても充実した時間を過ごせていると思う。
- ・まだまだ安全面に関しては心配なことが多い。
- ・外遊び時間が終わっても、まだ残って遊んでいる子をたまに見かける。もっと遊びたい気持ちを受けとめることも大切だと思うが、集団生活なのでルールや時間をまもらせることも大切なことだと思う。

【子どものエピソード】

- ・夏休み企画で肝試しを経験し、次は自分がおどかし役をやりたいと考えた子どもたちが冬休み、春休みに自分たちで企画・準備・実施・片付けまでを行う子ども企画が実現した。
- ・友達とトラブルになったときに、自分から「嫌だからやめて」と言えなかった子が、スタッフがその子の気持ちを大切にすりとりを通じて、自分自身の友達とのケンカの解決だけでなく他の子どものトラブルの仲立ちや優しい声掛けができるようになった。

【課題】

- ・スタッフ体制
 - ①病欠等の欠員が生じた場合、スタッフ補充が他事業スタッフとなる。
 - ②子どもから「やってみた！」という企画の声をゆっくりと聞ける人員の余裕が必要。

◆地域・民間団体との連携事業

●石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会

【目的】

石巻全域の子どもが、自らの足で出向ける場所にプレーパーク（居場所）があり、地域で子どもを見守る体制を構築することで、子どもの孤立を防ぎ、安心して暮らせる地域づくり

	目 標	実 績	成 果
内容	<p>◎6年後までに、石巻市内13か所の子どもの居場所（児童館、プレーパーク）設置を目指し、構成団体や地域住民と連携して、子どもの居場所を増やす。</p> <p>そのために、子どもや保護者の声を行政に届ける。</p>	<p>◎定例会議：12回（事業計画や事業の振り返りなど）</p> <p>・総会：7月</p> <p>・あそび場めぐり：7回</p> <p>市内の遊び場をめぐり来所者と交流</p> <p>・こどもセンターらいつ移動児童館サポート 他</p>	<p>・移動児童館のサポートにより、石巻市役所との関係構築が深まった。</p>

【課題】

- ・活動から成果があがるための事業見直しの検討

●渡中学区WWI(わっしょい渡波委員会)

【目的】

渡波中学校区の子どもが地域で見守られ、安心して暮らせる地域をつくる

	目 標	実 績	成 果
内容	<p>渡波中学校区(小学校2校、中学校1校)のPTAや民生委員、社会福祉協議会などと「地域の子どもは地域で見守り育てる」を合言葉に、任意団体として地域貢献活動を推進する。</p>	<p>◎スタッフ2名配置</p> <p>◎定例会議10回（他、夏祭り部会会議4回）</p> <p>【地域活動サポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡波かたろう会サポート ・こがねはマルシェ手伝い(8月) ・渡波中学校廃品回収(11月) ・渡波健康づくりパーク植樹イベント(3月) <p>【自主活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WWI鹿妻夏祭り(8月) 参加者：150名以上 ・肝試し大会 鹿妻小学校(10月) 渡波小学校(2月) 	<p>・構成メンバー：28名(+3名)各校校長・教頭・教員、PTA会長、民生委員、石巻市社会福祉協議会、民間団体など。</p> <p>・夏祭り開催後、2024年度は鹿妻の町内会が中心となって開催したいと申し出てくれており、地域の活性化と地域を中心とした子どもを見守る地域をつくるきっかけとなった。</p> <p>・地域のなかでWWIの活躍の場が増え、認知度や一緒にやりたい仲間が少しずつ増えてきている。</p>

●渡波かたろう会

【目的】

「交流・見守り・支えあい」を合言葉に、地区や世代をこえて子どもも大人もお年寄りもみんながつながり支えあい、安心して過ごせる地域をつくる。

	目 標	実 績	成 果
内容	社会福祉協議会や民生委員、地域サロン代表、福祉NPOなど「子どもも大人もお年寄りもみんながつながり支えあう地域」を目指し、地域貢献活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ◎スタッフ1名配置 ◎定例会議：11回 (活動計画、イベント企画等) 【イベント】 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども企画ゴミ拾い(6月) ・大宮町避難タワー見学(8月) ・ハロウィン大行進(11月) ・秋祭り(11月) 【研修】 <ul style="list-style-type: none"> ・石巻市生活支援体制整備事業研修会(12月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成メンバー：15名 社会福祉協議会、民生委員、地域サロン、民間団体など ・昨年活動に参加した子どもが地域の人とゴミ拾いをしたいとイベントを企画。地域と子どもをつないできた成果といえる。 ・地域の高齢者と子ども、プレーパークの子どもや保護者と地域住民など日頃の活動の中だけでは関わらない人同士をつなげることができた。 ・活動を通じて様々な人との連携が、障がいを持つ子どものプレーパーク利用に繋がった

●多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク

【目的】

教育機会確保法の理念を基に、宮城県内の民間の団体・教育委員会・行政などのネットワークを構築し、子どもが選択できる多様な居場所が保障される地域社会をつくる

	目 標	実 績	成 果
内容	◎不登校支援団体や議員を含む市民が連携し、行政と協働を図るための体制づくりをおこなう。	<ul style="list-style-type: none"> ◎定例会議：9回（事業計画、事業振り返り他) 【イベント】 <ul style="list-style-type: none"> ・不登校全国大会共催（8月) ・勉強会：教育機会確保法 (講師：文部科学省) ・不登校6000人アンケート実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会では、本会フリースクール児童が登壇し、意見を発表した。これにより大崎市教育委員長含む参加者に当事者の声を届けることができた。

●まずは石巻から不登校という言葉をなくすネットワーク

【目的】

石巻市内の不登校児童生徒の孤立をなくし、一人ひとりが心と居場所の安定を図ることで自己の未来を切り開く

	目 標	実 績	成 果
内容	<ul style="list-style-type: none"> 『不登校』の要因や教育機会確保法の周知、官民連携の事例を紹介することで、行政と協働でその改善策を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定例会議：9回 『不登校』シンポジウム関連の会議【主催イベント】 <ul style="list-style-type: none"> 親の会“おでんの会” 『不登校』シンポジウム(2月) <ul style="list-style-type: none"> 来場者数：67名 属性：当事者、教育関係者、社会福祉協議会、支援団体など 会場：石巻市ささえあいセンター大ホール 	<ul style="list-style-type: none"> 構成メンバー：8名 不登校シンポジウムでは、教育機関を含む不登校支援者が多数参加し、当事者の声を届け反響が大きかった。また、ワールドカフェでは、参加者同士が意見交換できる場となり、教員と当事者、保護者と行政といった、日常話す機会がないもの同士が話せたことが反響を呼んだ。

(2)子育てサポート事業

◆子育て相談

	目 標	実 績	成 果
内容	<ul style="list-style-type: none"> 子ども相談、子育て相談を受け入れ、孤立し悩む子どもや保護者の心のケアを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談または電話による相談窓口（事前予約制） 	<ul style="list-style-type: none"> 相談を受けられる人材が1人のため、余裕がなかった 東京の児童相談所経由で一時預かりをおこなうことで、対象生徒の居場所をつくることができた。
相談件数	子育て相談：90件 子ども相談：30件	<ul style="list-style-type: none"> 子育て相談：延22件 子ども相談：延21件（うち困難ケース対応延10件/その他日常的に相談対応） 東京都児童相談所・保護者困難事例相談：延7件 その他困難児童に関する相談：5件 一時避難受け入れ：1件/1月 	

【課題】

- 子育て相談の人材育成

(3)自然体験プログラム事業

2023年度は実施なし

(4)前各号に掲げる活動の推進を図るための啓発及び情報発信と人材育成事業

◆啓発事業

●講師派遣

- 宮城県石巻好文館高等学校SDGs探求授業：5月,9月,10月/佐藤・田中
- 協働教育統括コーディネーター研修会：11月/田中

- ・石巻市東ロータリークラブ定例会「不登校」に関する報告：田中
- ・石巻市南ロータリークラブ定例会「不登校」に関する報告：田中
- ・フリースペース道親の会「不登校」に関する登壇：6月/田中
- ・自由の杜学園・東日本大震災スタディツアー：7月/田中
- ・NPO法人うみねこ「あそびの出前」：8月/田中・千葉
- ・牡鹿半島ビジターセンター「あそびの出前」：2月/田中・千葉
- ・フリースクール運営に関するオリエンテーション：12月/田中
- ・NPO法人ベビースマイル石巻・移動児童館：8月,2月/田中
- ・はぴはぴ講座(子どもセンターらいつ)：3回/6,10,1月/石巻市
- ・石巻教育カンファレンス：2月/石巻市/田中

◆情報発信事業

- ・こどばにー活動報告会“こどもみらいず”：3月/石巻市・東京都
- ・会報誌"だんごむし"：4回発行 各800部
- ・ブログ：12回
- ・SNS（Facebook、Twitter、Instagram）：週1～2回程度配信
- ・こどばにーの日(毎月8日)：8月～3月まで/全8回

◆人材育成事業

●事業運営スキル向上のためのスタッフ研修

- ・救急救命講習：6月/石巻市/児童クラブスタッフ
- ・食品衛生責任者講習会：7月/石巻市/1名
- ・プレーワーカー公開講座研修：9月/2回/仙台/1名
- ・放課後児童支援員研修：10・11月/4回/石巻市/1名
- ・宮城県児童館・放課後児童クラブ地域研修会：11月/気仙沼市/児童クラブスタッフ
- ・子どもとのコミュニケーションの取り方：11月/石巻市/児童クラブスタッフ
- ・LGBT研修：11月/仙台・オンライン/全員
- ・不審者対応避難訓練：11月/児童クラブ内/児童クラブスタッフ
- ・子どもの視点から取り組むまちづくりと子どもの社会参加：11月/仙台/1名
- ・防火管理者講習：11月/仙台/1名
- ・さすまた訓練：12月/児童クラブ内/児童クラブスタッフ
- ・子どもにとって良い放課後児童クラブを考えよう講演会&ワークショップ
：2月/気仙沼市/児童クラブスタッフ
- ・放課後児童クラブ先進事例を学ぶ：2月/石巻市/1名
- ・渡波蛇田児童クラブ合同研修：3月/石巻市/児童クラブスタッフ
- ・カウンセリング講座（講師 高橋和巳氏）：3月/東京都/1名
- ・子どもアドボカシー：3月/石巻市/1名
- ・児童厚生員2級研修：3日/仙台/1名

- ・その他、アレルギー対応、衛生管理、熱中症対策に関する講習/石巻/児童クラブスタッフ

●組織運営のためのスタッフ研修

- ・資金調達研修：9月（1泊2日）,11月/常勤スタッフ

●外部人材育成

- ・ボランティア：計67名/延べ180名
- ・社会教育主事研修：4名
- ・石巻専修大学生：7名/11,12月
- ・まきボラ受け入れ：8名/3月

(5)その他、本会の目的を達成するために必要な事業

◆主たる活動地域内

- ・渡波小学校コミュニティー・スクール運営委員：佐藤
- ・鹿妻小学校コミュニティー・スクール運営委員：千葉
- ・渡波中学校コミュニティー・スクール運営委員：田中
- ・渡波地区まちづくり協議会：田中
- ・鹿妻小学校クラブ活動サポート「農村クラブ」：1回/鹿妻

◆石巻市内

- ・石巻市都市計画審議会：石巻市/田中
- ・石巻市地域福祉推進委員会：石巻市/田中
- ・石巻市不登校支援関係機関懇談会：石巻市/田中
- ・石巻圏子ども若者支援地域協議会：宮城県/千葉
- ・石巻市スクールソーシャルワーカー連絡会議：石巻市/田中
- ・石巻市子どもの居場所懇談会：石巻市/田中
- ・NPO法人にじいろクレヨン理事：田中
- ・NPO法人子どもにやさしいまちづくり理事：田中 など

◆宮城県外

- ・石川県能登半島地震視察（2泊3日）：石川県/田中・塩田・佐藤 など

3.事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者	受益者	事業費(円)
①すべての子どものための居場所（あそび場）に関する事業	プレーパーク事業 ・プレーパークわたのは ・鹿妻プレーパークひがこー ・プレーパーク普及	金・土・日曜 水曜 5回	渡波 鹿妻 石巻市内	4名 1名 2名	幼児 ～高校生 延べ4,812人 地域住民 延べ1,300人 (359回)	17,555,827
	フリースクール事業 ・フリースクールぼはっく	火・木・金曜	鹿妻	3名		
	地域・民間団体との連携事業 ・石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会 ・渡中学区WWI ・多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク ・まずは石巻から不登校という言葉をなくすネットワーク	月1回～2回 月1回程度 月1回～2回 月1回～2回	石巻市内 石巻市内 宮城県内 石巻市内	2名 2名 1名 1名	-	
	放課後児童健全育成事業 ・渡波地区第一・第二放課後児童クラブの受託運営	月～金 土/月1回	渡波小学校 敷地内	10名	小学生 延16,214人 (255回)	
	②子育てサポート事業	子ども相談・子育て相談	随時	石巻市内	1名	延55件
③自然体験プログラム事業	未実施	-	-	-	-	-
④前各号に掲げる活動の推進を図るための啓発及び情報発信と人材	啓発事業 ・講座/研修/講演会への講師派遣 情報発信事業 ・会報誌"だんごむし" 発行など 人材育成事業 ・事業運営スキル向上のための研修 ・組織運営のためのスタッフ研修 など	各通年 (年20回程度)	宮城県内 石巻市内	3名 7名 10名 6名		3,251,511
⑤その他、本会の目的を達成するために必要な事業	主たる活動地域内 ・渡波/鹿妻小学校CS運営委員 ・渡波中学校CS運営委員 ・石巻市都市計画審議委員会 ・石巻市社会福祉推進委員会 ・NPO法人子どもにやさしいまちづくり理事 ・NPO法人にじいろクレヨン理事 など		石巻 市内	各1名	-	1,081,034

(1) 会議に関する事項

理事会の開催：通常4回、臨時1回 計5回

(2) 運営体制

運営に関わるスタッフは以下の通り

代表理事：田中雅子

常勤スタッフ：5名

非常勤スタッフ：10名

(3) 組織基盤強化への取り組み

グッドガバナンス認証（第二回継続申請）2023年1月27日認証

(4) 正会員・継続サポーター

① 正会員 28名（前年+5名）

② 継続サポーター 92名（前年+7名）

(5) 地域社会や他団体との連携について

宮城県教育委員会義務教育課・生涯学習課、宮城県東部教育事務所、宮城県東部児童相談所、石巻市福祉部子育て支援課・保育課、石巻市都市計画課、石巻市総合相談センター、石巻市教育委員会、石巻市社会福祉協議会、石巻市立渡波小学校、石巻市鹿妻小学校、石巻市渡波中学校

公益社団法人 3.11 メモリアルネットワーク、特非) ベビースマイル石巻、特非) TEDIC、特非) にじいろクレヨン、特非) 子どもにやさしいまちづくり、一社) プレーワーカーズ、一社) フリースペースつなぎ、特非) まきばフリースクール、一社) フリースペース道、ふふふはうすなど連携団体は多数